

伊吹山&六甲山山行報告

【山行日】2016年7月 23日～24日(土日)

【集 合】岩舟支所P AM 4:00

【費 用】マイカー1台 : 29,300円

【メンバー】CL:鈴木コ 石田、岩淵、大西、関、
藤原、渡辺

23日 晴れ 伊吹山ドライブウェイPから伊吹山をトレッキングし日本三名湯の有馬温泉へ

岩舟支所P4:00＝伊吹山ドライブウェイP

10:05/10:20～伊吹山山頂 11:20/11:50～

伊吹山ドライブウェイP3:00/13:15＝

かんぽの宿『有馬』15:30



去年の望年会で「六甲山へ登りたい」という話が出て盛り上がり、伊吹山と有馬温泉を組み合わせで計画した。どうせ行くなら、伊吹山の花が一番きれいな時季に合わせ、7月下旬に計画した。



東名高速から名神高速を走り、関ヶ原 IC で降りて伊吹山ドライブウェイを登り、標高1260mのスカイテラス駐車場に着いた。準備を整えトイレを済ませ、ストレッチを行って出発する。

今回も花が素晴らしい西コースから山頂に登り、下り専用の東コースを降りてくることにする。

登山口手前に「恋人の聖地」の石碑があり、恋慕観音像の前で記念写真を撮ってから登山道に入る。

人気の西コースは大勢の登山者で賑わっており、思うように前に進まない。まず目に着く花は、紫色のクサフジと黄色いキオンの花だ。カワラナデシコやハク

サンフウロも目に付くが、前回のよう「ウワ～～素晴らしい！」と言う感動が無い。シモツケソウやクガイソウ、ルリトラノオ等の花はまだ時季が早いのだと思っていた。ところが、途中のネットで囲われた場所にシモツケソウやメタカラコウ等の花が咲き乱れており、周りのお花畑とは全く違っていた。近くにいた自然保護委員の方に尋ねると、「以前は、ここら一帯はシモツケソウの群生地全体がピンクに染まっていたが、フジテンニンソウと言う草がはびこり、シモツケソウを覆い尽くしてしまったそうである。ネットで囲われた箇所は、フジテンニンソウを重機で取り除き、シモツケソウなどを復元したそうである。



鹿の食害も深刻で、山全体がネットで囲われ食害から保護されている。

上に上がるにつれ花の種類が多くなり、写真を撮る人が多く中々前に進まない。途中からネットの扉を開けて、展望台へ登り休憩をとる。グレープフルーツを食べながら展望を楽しむと、上野登山口からの登山者が列をなして登って来る。休憩後西登山道へ戻り、緩やかに10分程登って行くと山頂に着く。





山頂には立派なトイレや山小屋が数軒あり、お土産や食事も撮ることが出来る。山頂の日本武尊像の前で記念写真を撮り、風を避けて日本武尊像の裏側に陣取りランチタイムとする。今日の山ごはんは、最近好評の温かい天ぷらうどん。今日は時間に余裕があるので、のんびりと花を眺めながらランチを楽しんだ。

昼食後女性たちはトイレに行ったが、女子トイレは長蛇の列で時間が掛かり諦めて戻ってきた。

下山は山頂のお花畑や三角点等を巡り、東登山道コースを下ることに

する。東登山道は、下り専用コースで、利用する人は少なく静かな山歩きを楽しめる。サラシナショウマの大群落があり、まだ花の時季には早かったが花の時季は見事だろうと思った。イブキジャコウソウやイブキコメグサ、ダケフキ等の花を楽しみながらのんびり下り、1時間程で駐車場に着いた。ここからは伊吹山ドライブウェイを下り、名神高速から中国道を経由して有馬温泉へ向かう。今宵の宿は有馬温泉かんぼの宿『有馬』に宿泊。

有馬温泉は日本最古の歴史をもち、日本三名湯のひとつ。のんびりと温泉に浸かり、今日一日の疲れを癒した。

夕食は夏の旨味を極めた、料理長自慢の会席料理を堪能する。

皆さん名湯と美味しい料理に満足し、明日の六甲山登山に備え早めに床に就いた。



24日 曇り時々晴れ 高座ノ滝登山口からロックガーデンを登り、雨ヶ峠経由で六甲山最高峰へ
かんぼの宿『有馬』8:00＝高座ノ滝登山口 8:45/8:50～風吹岩 10:15～雨ヶ峠 11:25～一軒茶屋 12:50
～六甲山山頂 13:00～一軒茶屋 13:10/14:20＝岩舟支所 P22:15

朝5時に起床し、まずは温泉に入り天下の名湯にのんびり浸かる。部屋に戻り、出発の準備を整え朝食バイキングに備える。



いつものように、朝食バイキング一番乗りで戦闘開始。皆、好きなものを皿一杯に盛り付けテーブルに戻ってきた。お腹いっぱい朝食を食べかんぼの宿を後に、し登山口の滝の茶屋へ向かう。芦有ドライブウェイを通り、芦屋川駅から登山口へ通じる道に入ると、登山者が列をなして歩いている。真夏の暑い時季なので、登山者はほとんどいないだろうと思っていたが...

大勢の登山者の脇を、申し訳なく思いながら車を進め登山口に着く。皆さんを登山口で降ろし、我輩は有馬温泉の登山口に戻る。

皆は、高座ノ滝登山口からロックガーデンを登りメインルート歩いて六甲山頂を目指す。我輩は、反対側の有馬温泉登山口まで戻り、反対側から六甲山山頂を目指す。皆さんとは、山頂手前の一軒茶屋で落ち合うことにした。ロックガーデン入口から、すぐに岩稜の急坂が始まる。





この付近は餌付けされたイノシシが多く、ハイカーの人気者になっている。中央稜と呼ばれる尾根道を辿り、高度が上がるにつれロックガーデン独特の風景が目に入る。風吹岩で休憩をとり、果物を食べて水分を補給する。ここから雨ヶ峠には、北に向かって進むが中々ペースが上がらない。予定よりかなり遅れているが、山頂まで登り切ることが大切なので、バテ無いようにゆっくり登って行く。

途中でS氏の携帯に連絡を入れるが、携帯を忘れたらしく繋がらない。本庄橋跡を過ぎ、最後の急登に掛かるとS氏からTELが入り連絡がつく。S氏は2時間前に着き、途中まで迎えに降りてきたが、あまりに遅いので戻ったらしい。私たちはかなり遅れたが、無事に一軒茶屋で合流出来、全員で六甲山頂に向かう。ほんのひと登りで山頂に着き、全員で記念写真を撮る。山頂は広いが展望は無く、少し下った東屋の下から芦屋の街並や大阪湾が望めた。

一軒茶屋まで下りランチタイムとするが、下りもコースタイムで降りるのは自信が無いとの事なので、我輩が車を取りに行く。皆さんがラーメンを作り昼食を食べる間に、我輩は有馬温泉に下り、車を一軒茶屋まで持ってくる。昼食を済ませた皆さんを車に載せ、一路岩舟支所に向かう。途中、中国道の西宮名塩 SA に寄り、皆さんはお土産を買い、我輩は腹ごしらえをする。帰りの車は皆さん元気で、「今回みたいな楽な山が良いよね」「山に登らないで温泉も良いよね」と好き放題なことを言っていた。帰りは伊勢湾岸道に回り、I 淵さんお気に入りの麒麟を見ながら走り、I 淵さんは大満足。夕食は、新東名の静岡 SA で海鮮丼をいただくことに。それぞれが好きな海鮮丼をオーダーし、満足そうに食べていた。途中大きな渋滞も無く、予定より少し遅かったが、無事に岩舟支所に帰着出来た。

